

議案（２）令和３（2021）年度 国民健康保険保健事業の実績について

1. 特定健康診査・特定保健指導事業

① 特定健康診査

《評価指標 令和３年度の受診率 48.0%》

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (参考値)
対象者数	20,960人	20,466人	20,410人	19,893人
受診者数	8,433人	8,213人	5,007人	7,852人
受診率	40.2%	40.1%	24.5%	39.4%
栃木県受診率 (市町国保)	36.6%	36.9%	30.8%	—
全国受診率 (市町村国保)	37.9%	38.0%	33.7%	—

※数値は法定報告による（4月1日現在国民健康保険に加入し、年度内異動のないもの）

※令和3年度の参考値は、特定健診等データ管理システムによる令和4年5月末時点での値

【評価】

○第2期データヘルス計画における令和3年度の特定健康診査受診率の評価指標は、48.0%である（ベースラインは平成27年度39.7%）。平成27年から平成30年度の受診率は、微増であるが増加しており、県や全国平均を上回ってはいる。しかし、令和元年においては0.1%減少したこと、また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集団健診の実施が10月になったことから、実施回数が減少し、令和2年度参考値の受診率は16.9%と大幅な低下がみられた。令和3年度の受診率は、新型コロナウイルス感染症による受診控えの影響が軽減され、上昇傾向にあるが、令和元年度以前よりは減少している。

【改善策等】

○若い年齢から受診行動を定例化させる必要があるため40歳から特定健診を受診できること、集団検診ではがん検診を同時に受診できること、及び節目でのみ受けられる検診があることを、周知し勧奨していく。

② 特定保健指導事業

《評価指標 令和3年度の実施率 27.0%》

種別	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (参考値)
動機付け支援	対象者数	799人	729人	476人	670人
	実施者数	236人	175人	67人	80人
	実施率	29.5%	24.0%	22.5%	11.9%
積極的支援	対象者数	226人	246人	130人	203人
	実施者数	26人	36人	11人	17人
	実施率	11.5%	14.6%	17.7%	8.4%
計	対象者数	1,025人	975人	606人	873人
	実施者数	262人	211人	130人	97人
	実施率	25.6%	21.6%	21.5%	11.1%
栃木県 (市町国保)	実施率	33.5%	31.2%	29.9%	—
全国 (市町村国保)	実施率	28.8%	29.3%	26.9%	—

※数値は法定報告による（4月1日現在国民健康保険に加入し、年度内異動のないもの）

※実施者数は3か月後の評価まで終了した人数で、初回面接のみ、途中脱落者は含まない。

※令和3年度の参考値は、特定健診等データ管理システムによる令和4年5月末時点での値

【評価】

- 第2期データヘルス計画における令和3年度の特定保健指導実施率の評価指標は、27.0%である（ベースラインは平成27年度22.4%）。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、特定健康診査の受診率が大幅に減少したが、特定保健指導の実施率は横ばいであった。
- 令和3年度から、感染症対策として、完全予約制の個別面接とした。健診結果に特定保健指導の案内を同封し、さらに全数に電話で利用勧奨をした。
- 令和3年度の参考値で、実施率が減少しているが、対象者へ初回面接を行う前に事業の参加希望を確認していることから、参加者の動機付けができており、途中脱落率は減少すると思われる。

【改善策等】

- 医療機関に事業の周知を行い、医療機関で特定健康診査を受診した者で保健指導を希望する者の事業参加を促す。
- 初回面接の機会を多く設定し、対象者の都合に合わせて実施する体制を継続する。
 - ICT面接を取入れ、より利用しやすい環境を作る。

2. 重症化予防対策事業

① 情報提供（特定健康診査受診者 7,852 人中）

内訳	実施数
血糖・血圧・脂質※	4,037 人
腎機能	988 人

※血糖・血圧・脂質は生活習慣病全般の内容のものを使用。

② 健診結果相談会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予約制の個別相談で実施した。

（ア）健診結果相談会（実施回数：47 回 来所者総数：317 人）

来所者内訳	対象者数	来所者数	年齢内訳	
			40～65 歳未満	65 歳以上
高血糖	328 人	153 人	19 人	135 人
高血糖＋腎	183 人	66 人	6 人	60 人
自発		97 人	20 人	77 人
合計	511 人	317 人	45 人	272 人

③ 訪問指導

特定健康診査の結果、高血糖、高血糖＋腎の者のうち健診結果相談会に未受診の者及び血糖以外の検査項目で指導が必要な者に対して、訪問で支援した。

区分	種別			計
	糖尿病		その他	
	高血糖	高血糖＋腎		
実人数（初回）	81 人	19 人	9 人	109 人
再訪問人数（年度内）	0 人	0 人	0 人	0 人
延べ人数	81 人	19 人	9 人	109 人

【評価】

○集団健診を4月から実施したため、R2年度に比べ受診者数及び指導対象者数が増加した。

○健康相談会や訪問での対面での指導ができなかったものに対しては電話での指導を実施した。その結果、健診時未受診であった274名中114名が受診につながった。

【改善策等】

○1回の支援では受診に至らない者もいるため、医療機関の受診や継続治療を促すために、訪問や電話の支援を強化していく必要がある。

④ 糖尿病性腎症重症化予防保健指導事業

《評価指標 利用者数 15 人、 保健指導の終了率 100%》

区分	対象者	利用者数	修了者
実人数	107 人	7 人	7 人

【評価】

- 事業の対象者(那須塩原市国民健康保険被保険者のうち上記対象者に該当) 107 人に通知し、本人からの申込み及びかかりつけ医からの紹介にて、7 人の利用があった。
- 利用者数 7 名のうち医療機関からの紹介は 1 名であった。
- 利用者は全て 6 か月間のプログラムを終了した。
- 利用者 7 名中 6 名は HhA1c の維持・改善が見られ、保健指導の効果が見られた。保健指導の終了後はかかりつけ医に対面で結果報告を行い、指導内容と効果を共有した。

【改善策等】

- 令和 2 年度のより利用者数は増加したものの医療機関からの紹介は 1 名のみであり、利用者増加のために医療機関との連携を強化していく必要がある。

3. 人間ドック・脳ドック助成事業

区分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
1 泊ドック	34 人	31 人	39 人
日帰りドック	687 人	690 人	722 人
脳ドック	135 人	65 人	106 人
合計	856 人	786 人	867 人

【評価】

- 1 泊ドックや日帰りドックの利用者は、同程度の人数を維持することができた。新型コロナウイルス感染症の影響により外出が制限された中でも、疾病の予防等への関心が高いことが見受けられた。

【改善策等】

- 特定健診時でのチラシ配布、広報、ホームページ、みるメール等の SNS により事業を周知し、被保険者の健康への意識向上を働きかけ、利用者数を増やしていく。

4. 健康度アップ事業

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
実施人数	173人	74人	93人

【評価】

- 緊急事態宣言の発令に伴い、施設の休業があったこと、活動を自粛した方が多かったことから、参加者が減少した。
- 事業後の効果について、利用者へのアンケートを実施したところ、参加前と比べて体調がよくなったと感じた人（77.2%）、新たに運動を始めた人（83.3%）となっており、当事業をきっかけに、新たな予防・改善への取組を支援することができた。

【改善策等】

- 特定健診時でのチラシ配布、広報、ホームページ、みるメール等の SNS により事業を周知し、被保険者の健康への意識向上を働きかけ、利用者数を増やしていく。
- 利用者の多くは、60代女性が施設を利用しているため、人間ドック等を利用する際に、事業の周知、施設利用を案内し、幅広い年齢層や男性への利用を働きかけていく。

5. 後発医薬品普及事業

《評価指標 後発医薬品利用率 80%》

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
通知件数	1,163件	820件	740件
利用率	74.8%	76.9%	77.8%

利用率・・・後発医薬品の数量 / (後発医薬品のある先発医薬品の数量+後発医薬品の数量)

【評価】

- 窓口での保険証交付時、保険証の年度切替による一斉更新の通知発送時に、ジェネリック医薬品希望シールを配布または同封し、ジェネリック医薬品の使用促進を周知し、利用率80%に近づけることができた。

【改善策等】

- 引き続き、窓口での保険証交付時や保険証等の通知発送時に、ジェネリック医薬品の使用促進を周知していく。

6. 医療費通知事業

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
通知件数	45,771 件	43,828 件	29,687 件

【評価】

○全被保険者に対し、医療費通知を送付し、適正な医療費の給付について確認する機会を作ることができた。

【改善策等】

○引き続き、事業を継続していく。

7. 重複受診対策事業

《事業対象者への通知発送割合 100%》

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
通知件数	5 人	7 人	4 人
通知発送割合	100% (5/5)	100% (7/7)	100% (4/4)

【評価】

○KDB（国保データベース）から指導が必要な重複・多剤服薬者4名（前年度から継続）を抽出し、受診の見直しの通知後、かかりつけ医の相談やお薬手帳の活用を勧奨するなど、窓口（1件）、電話（1件）、訪問（2件）による指導を行った結果、2名の受診状況に改善傾向が見られた。

【改善策等】

○引き続き、通知、電話、訪問により、看護師による保健指導を行っていく。